



どうなっとるのが 教えてちょ～!!



伊藤敬宏 議員

問

ほぎもんバスとデマンド タクシーの現状と今後の 事業運営について

- ①ほぎもんバスを小型化することにより、今まで行けなかったところも行けるようになるため、バスの運行ルートの見直しを検討する等の方法で対応してはどうか。
- ②デマンドタクシーは今後どのように運営していくのでしょうか。

答

総務課長

- ①現在のルート（停留所）について、まずは、小型化したバスを、乗車される方へ周知させていただき、各停留所の乗降状況を再度確認したいと思います。小型化したことにより、今後は、駅への乗り入れが可能と考えており、坂祝の公共交通の起点である、駅を中心としたルートの見直しを、公共交通会議や、乗車される方の意見をいただき、今まで以上に利用していただけるルート（停留所）を考えていきます。

答

福祉課長

- ②歩行等に制限があり、コミュニティバスが利用しづらい方への補完的な外出支援事業としてこの事業を位置づけています。
令和2年度からほぎもんバスの小型化に伴い、今後の利用動向を見極め、その利便性が高まってきた際には、これら2つの事業の一本化の方向も検討していくことも必要になってくるものと考えております。

問

子育て世代包括支援 センターの現状について

事業を立ち上げ2年が経過した現在の成果や状況、それらから見えた課題。そして、次年度に向けた重点とする取り組みは。

答

こども課長

妊娠・出産という時期は、すべての妊婦が抱えるリスクに対応した支援が必要な時期だと考えますので、現在は産後ケアを実施する人しかケアプランを立てていませんが、すべての妊婦にケアプランを作成する予定です。そして、特に支援を要する妊婦（ハイリスク妊婦・特定妊婦・自力で問題解決が困難な妊婦等）には、

より具体的な支援計画を本人と一緒に作成し、きめ細やかな対応をしていきたいと考えています。



林 重光 議員

問 教科書デジタル化と今後の文科省通達における授業内容について

文部科学省から、令和2年度から実施される学習要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習困難低減のため、学習者用デジタル教科書を制度化する「学校教育法等の一部を改正する法律」等の関係法令が平成31年度から施行された。特に本年度は学習要綱の中に防災も入ってきている。

坂祝小中学校においての取り組みも含め合わせて質問します。

答

教育課長

これまでに教育ICTプログラミング教育に対応するため、教職員用タブレット6台購入及び各教室の無線LAN整備を実施しました。学校現場では電子黒板を利用し、教科書の内容などを映し出すことで児童生徒が同じ教材や問題

を見て「主体的・対話的で深い学び」に繋がっています。

今後の予定では、国によりクラス全員が一度にアクセスしても利用できる通信環境を整備する「GIGAスクール構想」の実現に向けて、児童生徒一人一台端末の整備事業において高速大容量の通信ネットワークを前提とした、端末1台当たり4万5千円の補助の交付をすることとしています。

これを受け、町として、児童生徒一人一台の学習用端末（タブレットPC）を令和5年度までに計画的に整備するよう進めてまいります。

小中学校では地震・火災を想定しての命を守る訓練を年3回実施し、大雨や土砂災害を想定しての「引き渡し訓練」を1回実施しております。教科の指導の中でも、単元の内容と実生活とを繋げて防災・減災に関する指導をし、防災教育を行っています。

問 学校及び公共施設におけるトイレの改善について

現状、坂祝小学校における大便器洋式化は児童数の割に各トイレに1箇所しかなく、低学年では1つの洋式トイレに並んでしまい、身体にも心にも悲しい思いをしてしまうという、現場の声が聞こえて来ている。

トイレの改修は健康面にとって重要になると共に「明るいトイレで学校の雰囲気がよくなった」「生活マナーが向上した」などの教育効果も大きいことが指摘される。

子どもだけではなく町民の防災の観点においても早期実現につなげられたい。

答

教育課長

中学校においては平成29年度に障がい児等対応設備整備工事において国の交付金を受けながらトイレの洋式化をしました。

今後については、トイレの洋式化は十分認識しております。

学校を含めた、公共施設・インフラ施設の「長寿命化改修」など取り組むべき課題が山積していますので、過度な財政負担とならないよう国・県の補助金を活用するとともに、優先度や緊急性を勘案して計画的に進めてまいります。



小学校の和式トイレ



河村利道 議員

問 木曾川河川敷の活用について

国土交通省では、昨年度より3年計画で、「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」を進めており、現在、取組地区の木曾川河川敷の竹林伐採を施工しておられる。そこで、竹林が伐採された後の木曾川沿いの素晴らしい環境を町民の皆さんが集い、楽しむ場として活用できないものかと考えている。車を取り入れ、バーベキュー等楽しめる場所として最適であると思う。

国土交通省に問い合わせたところ、町の申請があれば許可されるとのことであった。

坂祝町として、木曾川河川敷を町民の「憩いの広場」として活用される考えはあるのかお尋ねします。



取組地区で進む竹林伐採

答

産業建設課長

国土交通省では、平成21年度から「かわまちづくり事業」始めております。これは、河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観・歴史・文化及び観光基盤などの資源や地域の創意に富んだ知恵を活用し、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携のもと、実現性の高い水辺の整備・利用に係る河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指した取り組みです。

当町もこの「かわまちづくり事業」への登録を見据え、令和2年度一般会計予算に調査費を計上し、今後、地域住民や関係団体等の参画を得て計画を策定する予定です。



新井谷正代 議員

問 より良い公共交通であるために

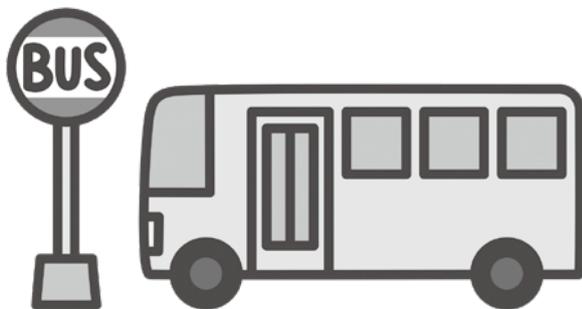
- ①ほぎもんバスの改善策は。
- ②見直しを考える中で、停留所に時刻表があった方が利用しやすいと考えるが。

③収入も考えるべきだと思うが、車体へのラッピング広告の案内をしてはどうでしょうか。

答

総務課長

- ①バスの小型化、坂祝駅に停留所を設けられないか等、停留所やルートの見直しを検討します。
- ②考えたい。
- ③小型化バスはリースのためラッピングは難しいが、マグネット式の広告を考えたい。



問 デマンドタクシーについて

- ①事業開始から1年。見込んでいた程成果が出なかったが、原因の分析はされていますか。
- ②改善策は。
- ③事業継続について。何かしら判断をする基準は考えていますか。
- ④改善点はあるものの、以前の外出支援事業の方が今出ている不便な点への対応が可能だと考えるがどう考えますか。

答

福祉課長

- ①事前の住民の皆さんの反応からの見込みと、利用ニーズが十分把握しきれていなかったことが原因と考えられます。

- ②利用者等の意見などを継続して蓄積し、乗車率が1.4人と少ないので、高めていけるよう課題とし、改善策を検討していきます。
- ③ほぎもんバスの小型化、ルート見直しなどで利便性が高まれば一体化することも検討していくこととなります。
- ④運転手を必要な人数だけ確保するのは難しいと考えます。



松田賢治 議員

問

防犯灯の電気料金の無料化を求める

美濃加茂市、富加町では、数年前から地域自治会の防犯灯の電気料金の無料化を実施している。坂祝町も無料化を求めます。

答

総務課長

防犯灯の無料化については考えていません。

問

太陽光発電設置条例の設置を求める

事業者による土地開発行為は適切な措置を行わない場合、周辺の雨水や土砂の流出、地滑り等を発生させる恐れがある土地および周辺環境の調査、土地の選定に当たっては、災害の防止、周辺環境との調和などに配慮するとともに、ご当地エネルギーの仕組み作り・反射光などによる地域住民の生活環境への影響がないように考慮する必要があるのでは。

答

産業建設課長

事業者による適正な環境配慮、近隣住民の説明の有無など、事業者のとるべき責務を明確にし、町として把握しておくべき事項についての届出制度創設について、今後検討したいと考えております。



問

ワクチン行政の推進と小児がん対策の推進を求める

予防接種でできた抗体が失われ、免疫力が低下した子どもへの再接種費用の助成を求めます。

答

福祉課長

岐阜県においても再接種費用を助成する市町村に対して、その基準額の1/2の額を県が補助するというものになっています。当町におきましても「坂祝町特別な理由による任意予防接種費用助成金支給要綱」を制定し、昨年4月1日から施行しています。再接種者があれば、経済的負担を軽減するとともに、感染及び発病防止を図ってまいります。



小島利成 議員

問

県の木曾川中流域での広域観光連携にどう対応するか

- ①県は令和2年度より「清流木曾川再発見プロジェクト（仮称）」を始める予定と聞かすが、昭和58年美濃加茂水害以来、堤防が出来てドライブイン等の商業施設がなくなった今、町として観光振興にどう対応されますか。
- ②町には名勝木曾川をはじめ「宝物」が沢山あるので、この機会に民間の力も活用し観光による産業振興に繋がられないか、今後の進め方を伺います。
- ③民間の方のアイデアの一端だけでも教えていただきたい。

答

総務課長

- ①先月、県の観光企画課長が来庁し、今後の県の進め方を説明されました。先ず木曾川流域のコンセプト（概念）を決めたり、対象エリアを絞り込む等、日本ラインを意識した話し合いの場を始めるとの事です。既に民間レベルでプロジェクト実現に向けて話し合いが進んでおり、先日もその代表者から沢山のアイデアがあるお話を聞き、坂祝町としての収入を生む事業（経済効果）のアイデアも聞かせていただきました。
- ②この機会を絶好の機会と捉え、積極的な参画を行い、この日本ラインの景勝地を生かしていきたいと考えています。
- ③オートキャンプ場などアウトドア的な活用や、木曾川沿いに花桃やモミジを植栽して観光客を呼び込むなどのアイデアを考えられているようです。

問

中山道不通区間の改善策の現状と今後の対応について

- ①勝山地内うとう峠に向かう中山道の一部が、県内唯一の不通区間となっている。令和2年度当初予算案で改善策が提案されたが、事業内容と整備効果について説明願います。
- ②今後の維持管理と関係市町と連携したソフト対策についてもお聞きます。

答

産業建設課長

- ①今年度、県において水路内の既存歩道のかさ上げ工事等を行いより安全性を確保しました。そして、来年度以降「(仮称)中山道補完遊歩道」を開設する予定です。整備効果とし

ては、「木曾川広域連携事業」や「かわまちづくり事業」と一体的に取り組むことを考えています。

- ②維持管理については、官民協働が基本です。ソフト対策についても森林保護や木材活用のイベント・教室の開催等も検討していきます。



水路を利用した歩道

あの人このひと

坂祝町に住み、各分野でご活躍されている住民の方々をご紹介します。

郷土を
こよなく愛して
七十年

三品 久子



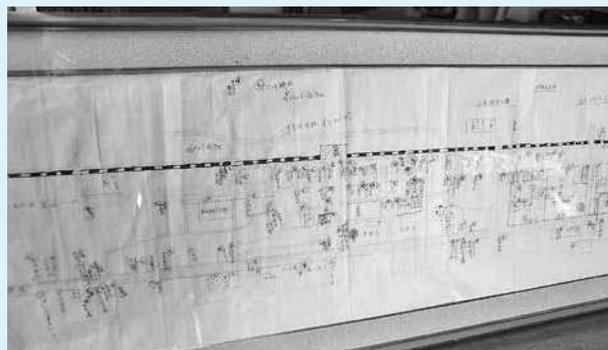
私は今年で90歳になり、坂祝へ来て70年になります。

今思えば、郷土史や俳句を垣間見てきたのが、私の宝物だと思います。昭和27年に現在の小学校北側に家を建て、私の歴史が始まりました。数年前から、思い立つままに以前住んでいた取組の歴史を残そうと、古い商店等が立ち並んだ地図を書き記しました。

私が歴史に愛着を持ったのも、郷土史研究会に入らせて頂いたお蔭でもあり、なかでも十数年前

に坂祝町史(史料編)に載せて頂いた事は嬉しい限りでした。

俳句会でも勉強させて頂いた事も含め、35年も続けられた事ですね。人生最大の喜びは、小・中学校に出掛け、子どもたちに俳句を学ぶ勉強の手助けができました。今後も貢献できるよう、努力していきたいと思っています。



三品さん制作の昔の取組商店街地図